



# 活力ある秋田 Vol. 48

## 地道な取り組みで 秋田の観光・物産をPR

[秋田市観光クチコミ大使]

NTTファイナンス(株) 取締役東日本統括サービスセンター所長 小野寺 仁 氏

秋田を離れて再び東京で暮らすようになって間もなく1年になろうとしています。東京での暮らしは便利で多くの仲間もおり冬でも気候は温暖ですが、たまにふと秋田で暮らしていた頃が無性に懐かしく思い出される時があります。親戚もおらず、わずか2度の勤務で通算6年間暮らしただけの秋田ですが、私にとって“心の故郷”になったようです。

縁あって「秋田市観光クチコミ大使」を委嘱され、もとより微力ではありますが観光振興に関われるのは光栄であると同時にとてもいい機会を頂戴したと思っています。私の本業は情報通信ですが、光アクセス網の整備等を通して観光に関する情報発信に多少は貢献してきたと自負している反面、映像や情報だけでは“秋田に行ってみよう”という気持ちを行動に結びつけるのは難しいとも感じていました。クチコミ大使委嘱と首都圏への転勤を契機に“気持ち”を“行動”に結びつける取り組みをやってみようと思ったのです。

まずは「食」「祭り」「旅情」をキーに取り組みを始めました。食に関しては、先日「カンブリア宮殿」で放送された静岡県富士宮市の渡邊英彦氏の取り組みが強く印象に残っています。皆さんご存知のB-1グランプリ主催者であり、“富士宮やきそば”で町おこしに成功した方ですが、渡邊氏の「B-1グランプリはグルメが主役ではなく、あくまでもまちおこしがメイン」というブレない信念での継続した取り組みが、初回2万人弱しか集客できなかったイベントを60万人超の大イベントに成長させたのです。基軸をしっかりと据えた戦略的思考と継続性と多少の遊び心は企業経営にも参考になるものですが、私の取り組みも「食」を通じて秋田を身近なものに感じてもらうことができるように、実際にお酒やいぶりがっこやハタハタ寿司やリンゴ等を食してもらうことから始めま

した。ハタハタ寿司やいぶりがっこは初めての人にはどうかなと思いましたが、それは無用な心配で欠片も残らず無くなってしまいました。これからも会社食堂でのオープン酒場や会議後の懇親会等で「食」を通して秋田を感じてもらうことを継続してやろうと考えています。

次は「祭り」と「旅情」でのPRですが、職場の有志レクとして夏祭りと観光を組み入れた秋田2泊3日の旅行を提案したところ30名を超える参加者が集まり、予想していた数を大幅に上回りました。何かきっかけがあれば行動する(行動したい)ということが計らずも検証された結果になりました。東京で暮らしている人から見れば秋田旅行は非日常的な“ワンダーランド”への期待感溢れる旅であり、きっと記憶に残るものになると確信しています。準備は大変ですが、ツアコン役の私としてはとても遣り甲斐のある作業です。リピーターも出てくると思うので、来年も有志を募って秋田への旅を計画しようと今から楽しみです。委嘱式の時には「秋田の人が自らもっとPRしなければ」という辛口の話もありましたが、私達のような秋田での生活を経験した人間が首都圏や近畿圏等で観光振興をお手伝いすることも大切なことだと思っています。地道に取り組むことしかできませんが、多くの方に秋田のファンになってもらうようこれからも頑張っまいります。



120名超が参加した忘年会で秋田の「食」を紹介

### ■略歴

S52.4	日本電信電話公社入社
H14.5～H16.6	東日本電信電話(株)秋田支店営業企画部長
H21.7～H24.3	東日本電信電話(株)秋田支店長
H24.4～	NTTファイナンス(株)取締役東日本統括サービスセンター所長